

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター わっこ		
○保護者評価実施期間	2025年1月14日		～ 2025年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	2025年2月25日		～ 2025年3月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○訪問先施設評価実施期間	2025年1月14日		～ 2025年2月28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	18施設	(回答数) 9施設
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い訪問支援員が、園や学校に訪問し、先生方と連携を図っている。	・併設している病院のリハビリ職員（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）や心理職員を訪問支援員として配置している。	職員の知識や技能を高める取り組みを行っていく。（内部研修、外部研修の参加など）
2	併設している病院のリハビリや児童発達支援の担当者が訪問員となるため、利用児の特性や普段の様子を把握できている。	・普段から、所属機関での様子を保護者様から聞き取るように努めている。 ・複数担当者がいる場合、情報共有をするようにしている。	・適宜、所属機関との連携を図る。
3	併設している病院を受診している方が利用されているため、医師とも連携を図りやすい。	・福祉の場面で得た情報を医師にも共有するようにしている。	・医療でのカンファレンスの機会等を活用し、今後も医師との連携を行っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問する頻度が低い。	・医療と兼務の職員が多く、時間の確保が難しい。	・リハビリの見学も活用し、所属機関との連携を図る機会を設けることは継続して行う。
2	事業所でご家族に対して家族支援プログラムの実施ができていない。	・医療と兼務の職員が多く、時間の確保が難しい。	・他機関での研修などについては掲示で今後もお知らせしていく。 ・事業所での取り組みについては、今後どのような形で実施できるか模索していく。 ・医療生活協同組合の取り組みである班会の紹介を行っていく。
3	兼務の業務がある際に相談に対してすぐに対応することが難しい場合がある。	・兼務の職員が多いため、早急な時間の確保が難しい。	・電話の場合、相談内容の聴取は、できる範囲で担当以外でも行うようにし、再度連絡をとる際にすぐに対応できるように努めている。